

株式会社ライフコーポレーション

持続可能で豊かな社会の実現に貢献する 食品廃棄物削減の取り組み



ライフコーポレーション

近畿圏169店舗、首都圏144店舗、合計313店舗
(11月30日現在) を展開する食品スーパーマーケット



【経営理念】

「志の高い信頼の経営」を通じて
持続可能で豊かな社会の実現に貢献する

【持続可能で豊かな社会の実現】

コミュニティの人々が「楽しく」「安心して」
「健康的な」生活を営むことができる

+

地球環境、社会が
健全であること

安定的・継続的な店舗運営、安全・安心で高品質な商品・
サービスの提供とともに、**地球環境と社会の課題解決**に努める

食品廃棄削減

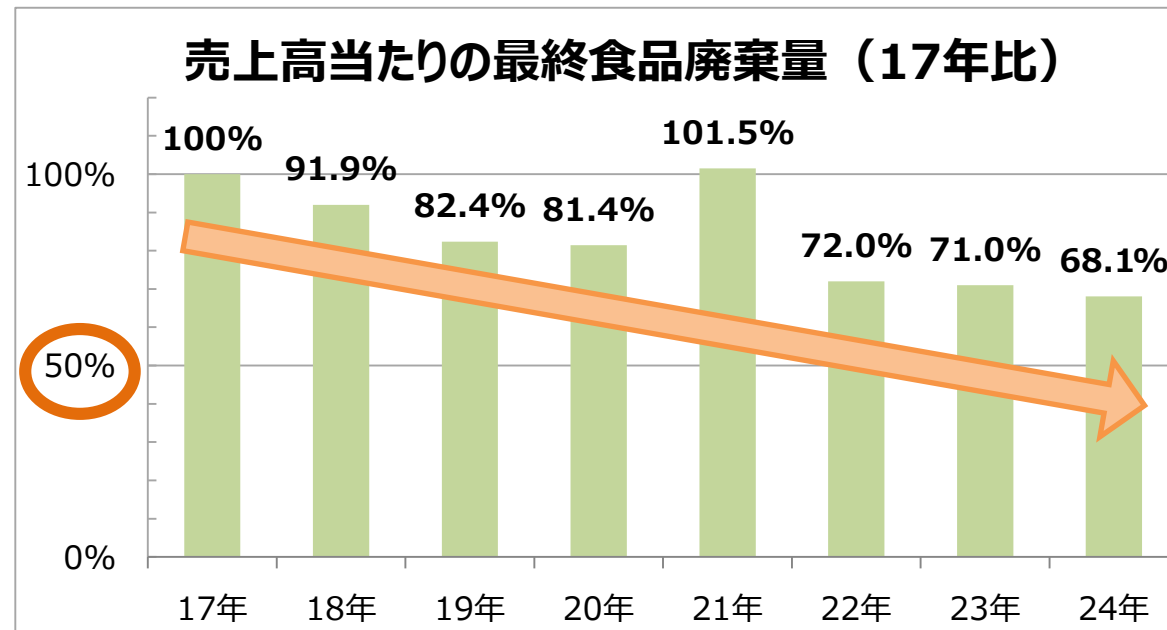
● 取り組む理由

日本で年間**472万t**（食品小売業で49万t・令和4年度）の食品廃棄が発生

- ・食品を多量に製造・販売する事業者としての社会的責任
- ・循環型社会の構築に貢献

● 目標

2030年までに2017年度売上高当たりの食品廃棄量を**50%**削減



食品廃棄削減 主な取り組み

- ① 食品残渣を活用したバイオガス発電事業
- ② 地域の子ども食堂等への食品寄贈
- ③ 生鮮食品提供の実証実験（ステナス）
- ④ 販促物などによる呼びかけ
- ⑤ 食や環境に関する「出前授業」「店舗イベント」
- ⑥ 自治体と連携した商品開発
- ⑦ アップサイクル商品の開発

① 食品残渣を活用したバイオガス発電事業

プロセスセンターで発生する食品残渣を利用して発電



原料投入

食品残渣を投入



10トン投入

バイオガス発電機

二酸化炭素
排出抑制



バイオガス発酵槽



バイオガス
による発電

消化液処理設備

約90%の
廃棄物削減



発酵槽の保温に
発電機の排熱利用

1トンの廃棄物

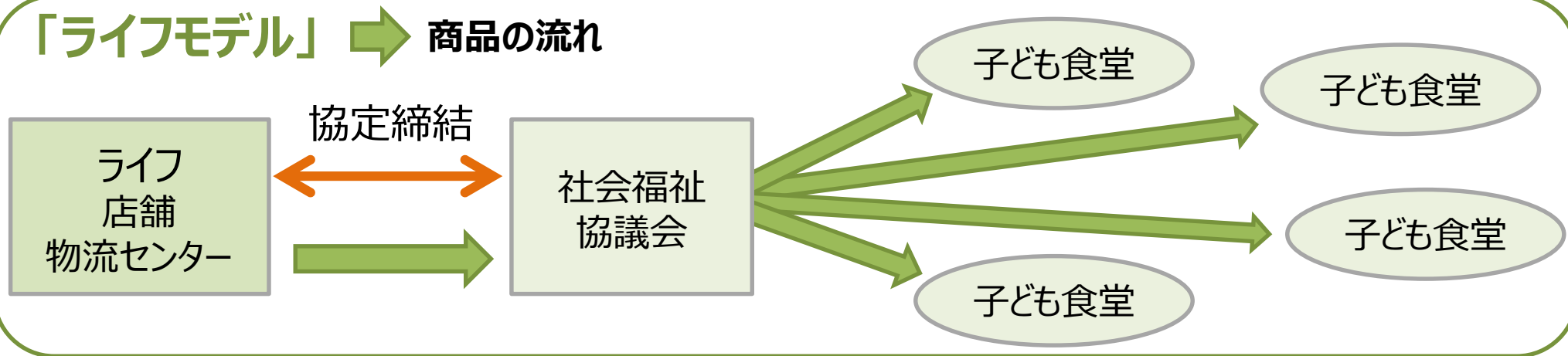
② 地域の子ども食堂等への食品寄贈

販売期限切れや外装の破損などで販売不可となった商品のうち、賞味期限内で安全な商品を出店地域の子ども食堂等に無償で提供

【提供商品例】



「ライフモデル」 → 商品の流れ



社会福祉協議会等と直接協定を交わす「ライフモデル」を確立。店舗毎に提供食品を用意しており、社会福祉協議会等が月1回来店し、商品を受け渡し。



2030年50拠点（店舗または物流センター）での支援を
目標に、2019年から取り組みを開始

2026年1月現在、**25地域(市区町村)** **75拠点**で実施

2023年度の提供商品数は**20,000個以上**

- **首都圏**：11地域26拠点
東京都（11地域26拠点）
- **近畿圏**：14地域49拠点
大阪府（7地域29拠点）
兵庫県（3地域15拠点）
京都府（1地域3拠点）
奈良県（2地域2拠点）

③ 生鮮食品提供の実証実験（ステナス）

ネスラー、一般社団法人サステイナブルフードチェーン協議会、東急ストアと協業し、食品ロス削減と子どもの貧困解消の両立を図る。

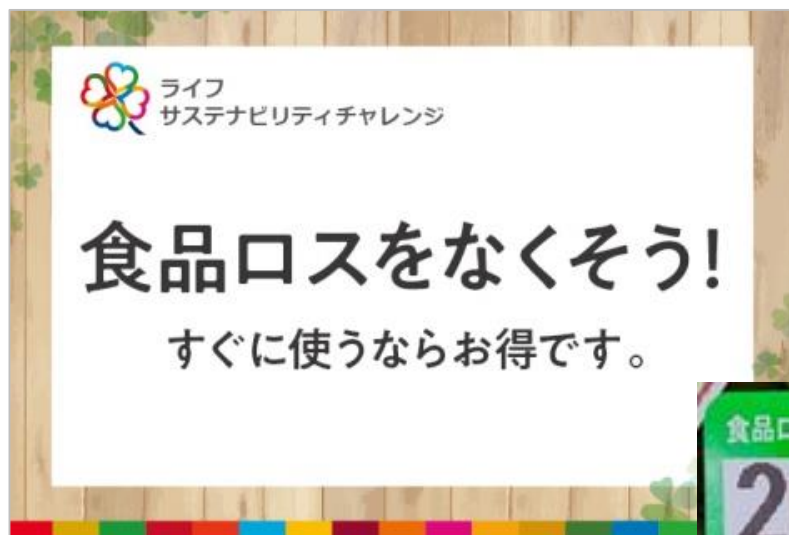
「ステナス」は、まだ食べられるがスーパーで販売できなくなった生鮮・日配食品などを、マッチングプラットフォームを活用して、ひとり親世帯、奨学金受給学生、こども食堂等の団体などを含む消費者へ、リアルタイムにマッチングを行う仕組み。利用者は、通常より安価に商品を購入して、店舗に設置した無人の専用冷蔵庫で購入した商品を受け取ることができる。



④ お客様へご協力をお願い 「販促物などによる呼びかけ」

● 見切り商品

- ・すぐに使うならお得です
- ・食品ロス削減にご協力をお願いします



● てまえどり

- ・すぐに使うなら“てまえどり”にご協力ください



⑤ 食や環境に関する「出前授業」「店舗イベント」

● 出前授業

出店地域の小学生・園児を中心に実施

【実施件数】205件 14,253人（2024年度）

【プログラム】三色食品群、食品ロス、環境学習、もったいない鬼ごっこ等



ライフオリジナル環境冊子「いっしょに未来を考える。の本」

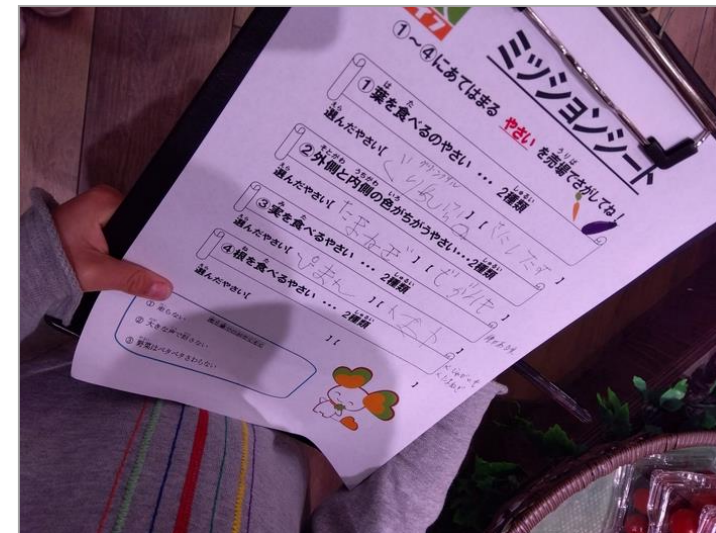


● 店舗イベント

「食の大切さ」や環境を学ぶ店舗イベントを小学生の親子を中心に実施

【実施件数】31件 848人（2023年度）
（内メーカーコラボ 首都圏8社 近畿圏5社）

【プログラム】三色食品群、食品ロス、お買い物ゲーム、たべものビンゴなど



⑥ 自治体と連携した商品開発

ライフオリジナル「大阪産（もん）」商品



- 大阪産(もん)
大阪府域で栽培・生産される農産物、畜産物、林産物、水産物と、それらを原材料として使用した加工食品

品質には問題がないものの、一般流通できない規格外の大阪産みかん、レモンを使用した「サステナブル」なお酒

⑦ アップサイクル商品の開発



カットフルーツやサラダチキンを製造する際に余ってしまった原料を活用した商品です。食品ロス削減と資源の有効活用（サーキュラーエコノミー）を目的としています。

2030年食品廃棄50%削減に向けた 今後の取り組み

① バイオガス発電施設

2025年3月より、関東圏でも稼働開始。
関東圏での食品廃棄量・CO2排出量削減にも取り組む。



② 子ども食堂等への商品寄贈

・**出店エリア内**(東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・
兵庫・京都・奈良) の市区町村で年間4~5
地域の支援拡大を目指す

・**生鮮食品**提供の実証実験結果を踏まえ、
近畿圏での実施を検討



③ 出前授業・店舗イベント

・当社事業に関連した内容で、「食の大切さ」などを伝える



④ 店頭での食品ロスを削減

・AIによる精度の高い発注を実施
 ・食品廃棄量や、廃棄金額の見える化を行い、各店舗の特徴に合わせた取り組みを実施

岡町店

自分事化
見える化

共有スペース掲示板
部門ごとの月別廃棄金額と昨比、廃棄率と昨差を掲示して数値の見える化

9月にキックオフミーティングを実施し、パートナーの方も含めた取り組み開始

一人ひとりで提出

個人目標・個人取り組みを部門別で作成

部門別 食品廃棄削減のための分別取り組み

部門別の取り組み・目標一覧

廃棄ロス金額昨比・廃棄率昨差の見える化



ライフコーポレーションは、

今後も、

「持続可能で豊かな社会の実現」
に向けて取り組みを推進してまいります。

ご清聴ありがとうございました。

